

<琵琶湖の代表的な魚>

琵琶湖の魚類

現在琵琶湖には、80種（亜種を含む）の魚類が生息しているが、オオクチバスやワカサギ等の国内外からの外来種を除くと、在来種は63種であり、このうち45種が琵琶湖に生息し、さらにビワコオオナマズやニゴロブナなどの16種にのぼる琵琶湖固有種が生息しているのです。琵琶湖は、淡水魚の宝庫です。

主な魚類をあげてみると

コイ科36種、ドジョウ科6種、サケ科5種、ハゼ科4種、ナマズ科3種、他にアユ、ギギ、ウナギ等々があります

コイ（コイ科）

人々に古くから親しまれてきたコイは、2対のひげを持ち、アジア、ヨーロッパ及び北アメリカに広く分布しています。



ニゴロブナ(コイ科・固有種)

体高は低く、幅が厚い。目が大きくひげはない。鮎寿司の原料となる魚であるが、最近漁獲量が激減している。



アユ（アユ科）

春先に川をさかのぼり、夏には、石についた藻類を食べる。9月から12月に産卵する。琵琶湖のアユは大きくならず、種鮎として、全国の河川に供給される。



ホンモロコ（固有種）

ホンモロコは普段は琵琶湖の沖合いに生息し、3～6月に産卵する。ホンモロコは、冬が特においしく代表的な琵琶湖の名物。漁獲量は激減したが、近年は養殖されている。



カネヒラ

ボテジャコの名前で知られている。他のタナゴ同様2枚貝に産卵する。タナゴの中では最大のもので、まれに15cmくらいのもものもいる。



ビワコオオナマズ（固有種）

琵琶湖の固有種の代表格の魚である。化石が現存するという、古くから生息している魚である。普段は沖合いの深いところに住んでいる。



(写真提供：滋賀県立琵琶湖博物館)